

名詞

レクチャー1

「数えられる名詞(可算名詞)」と「数えられない名詞(不可算名詞)」の見分け方。

ある名詞が「数えられる(=可算名詞)」か「数えられない(=不可算名詞)」かの最も単純な見極め方は以下の通りです。

- ①「数えられる名詞」…(その名詞)を聞いてイメージ(形・まとまり)が具体的に浮かぶもの。つまり絵に描けるもの。
- ②「数えられない名詞」…(その名詞)を聞いてイメージ(形・まとまり)が具体的に浮かばないもの。つまり絵に描けないもの。

具体例を挙げて説明してみましょう。

「furniture(家具)を描け」と言われて、すぐにイメージがわくでしょうか。家具といっても、タンスもあれば、鏡台もあります。一瞬何を描けばいいのかわからないはずです。このようなものは「数えられない名詞」になるのです。

baggage(荷物)やscenery(風景)にしてもそうですね。漠然とし過ぎて具体的なイメージがわきません(「荷物」といっても、ポーチからボストンバッグまでいろいろあり得る)。これらも「数えられない名詞」です。

しかし、たとえば life(人生・暮らし)は、数えられない名詞なのに、happy life というと数えられる名詞になります。これはなぜなのでしょう。

- ① life(人生・暮らし) [不可算名詞]
- ② a happy life(幸せな人生・暮らし) [可算名詞]

それは、「人生・暮らしについて書け」と言われても、テーマが大き過ぎてすぐには何を書いたらいいのかわかってしまいますね。つまり具体的なイメージがわきません。だから life(人生・暮らし)は「数えられない名詞(不可算名詞)」ということになるのです。しかし「自分にとっての幸せな人生・暮らしについて書きなさい」と言われれば、先程よりは書きやすいのではないのでしょうか。つまり「イメージがわきやすい」わけで、この場合、「数えられる名詞(可算名詞)」となって②のように a がつくのです。

更にこんな例をあげてみましょう。coffee など、液体状のものは「数えられない名詞」と学校で習ったかもしれませんが、喫茶店などでの会話ではこんな表現が成り立ちます。

I ordered three coffees.

coffee そのものは具体的なまとまりに欠けるので数えられません。ところが喫茶店に出されるようなコーヒーは、カップの中に入っていてまとまっているように感じられます(多くの人が共通してその「絵(イメージ)」を頭に描ける)。その結果、1杯2杯と数えられるようになってくるというわけなのです。

このように「数えられる」か「数えられない」かは"具体的なまとまり(形)"という感覚が感じられるかどうかで決まってくるということを覚えておいてください。

更にもう1つこんな例を挙げてみましょう。「私はサラダにリンゴを入れた」という場合、どちらの英文が正しいでしょうか。

① I put an apple in the salad.

② I put apple in the salad.

①では an apple と、可算名詞として apple を使っています。ということは、まとまった具体性(頭の中で絵に描ける)をもっていることになるので「リンゴまるごと(そのままの形で)1個」をサラダに入れたということになってしまい不自然。逆に、②の方は、無冠詞で apple を用い、不可算名詞として扱っています。ということは、まとまった形を念頭に置いていないこととなります。サラダに入れるリンゴは細切れになっており、確かに元の「形」はイメージできませんね。したがって②の方が正しいのです。

ついでにもう1つ。kindness には「可算名詞」と「不可算名詞」の両方の意味があります。不可算名詞の場合、「親切、優しさ」という意味。確かにこれは具体的なイメージ(形)が浮かびません。つまり絵に描けません。

(ex) He did it all cut of kindness.

彼はそれをすべて親切心からやったのだ

Treat everybody with kindness.

だれにでも優しく接しなさい

kindness が可算名詞となる場合、「親切な行為」という意味になります。こちらは逆に具体性があり、イメージが浮かびます(電車の中でおばあさんに席を譲

ってあげるとか…)。

(ex) I received many **kindnesses** from him.

彼からいろいろ親切にもらった

Will you do[show] me a **kindness**?

お願いがあるのですが

可算名詞、不可算名詞両方の用法があるのは life, kindness, apple だけではありません。多くの名詞には両方の用法があるのです。

ではある名詞を(「可算名詞」「不可算名詞」に)使い分ける基準は何かというとそれは、要するに話し手(書き手)がその名詞を語る(書く)際に、その具体的なイメージ(形、まとまり)を頭に描いて語るならそれは可算名詞になるのであり、そうでなければ不可算名詞になるのです。

レクチャー2

頻出の不可算名詞。

以下は、不可算名詞なのに、日本人の感覚からつい「数えられる名詞(可算名詞)」とみなしてしまいがちなものです。

これらの名詞は数えられないわけで、冠詞の「a(cre等)」はつかないし、もちろん複数形の「s」もつきません。太字のものは特に受験では頻出です。

(1)ある種類全体を表わす集合名詞

(ex) machinery「機械類」 **baggage**「荷物類」 **luggage**「荷物類」 **furniture**「家具類」
poetry「詩歌」 mail「郵便物」 **clothing**「衣類」 merchandise「商品」
scenery「景色」 **fruit**「果物」 game「獲物」 food「食物」

ちなみに machinery は機械類全体を表す名詞(決まった「形」がない)なので数えることはできませんが、machine は1つ1つの機械を表す名詞(こちらは決まった「形」がある)なので数えることができます。同様の関係が poetry(詩歌)と poem(1つ1つの詩)にもあてはまります。以下にそのような名詞同士の関係を表にしてみました。

ある種類全体を表すもの(数えられない)	それを構成する個々のもの(数えられる)
baggage[luggage]「手荷物」	bag, suitcase, box等
clothing「衣類」	clothes「衣服」, shoes等
fiction「文学作品としての作り話」	novel「長編小説」, story「物語」等
furniture「家具」	table, chair, bed等
scenery「1地方全体の景色」	scene「(個々の)景色」
jewelry「宝飾品」	jewel「(個々の)宝石」
pottery「陶器類」	pot「(個々の)陶器」
merchandise「大口の商品」	goods「(小売の)商品」

(2)物質名詞 物質の名で、一定の形や区切りがないもの)

(ex) water 「水」 rubbish 「ゴミ」 sugar 「砂糖」 salt 「塩」 money 「金」
rain 「雨」 rice 「米」 coffee 「コーヒー」 bread 「パン」

(3)抽象名詞 (具体的な形を持たない抽象的な概念の名で、性質・状態・動作・感情・学問主義・運動・病気などを表す名詞)

(ex) advice 「忠告」 progress「進歩」 leisure 「余暇」 damage 「被害」
luck 「運」 evidence「証拠」 knowledge「知識」 weather 「天気」
wisdom 「知恵」 music 「音楽」 homework 「宿題」 attention「注意」
behavior「行為」 fun 「楽しみ」 proof 「証明」 nonsense 「無意味な事」
harm 「害」 conduct 「態度」 news 「知らせ」 information「情報」
applause「拍手喝采」

「形容詞+抽象名詞(物質名詞)」。

抽象名詞(物質名詞)に形容詞がつくと具体的な例や種類を表し、a[an] がつく(つまり可算名詞化する)ことが多いんですね。

(ex) She had a **happy marriage**. 彼女は幸せな結婚生活を送った

上の英文の場合、marriage は本来不可算名詞なのに、happy という形容詞がつくことによって可算名詞化し、冠詞の a がついています。

このように形容詞がつくと抽象名詞(不可算名詞)が普通名詞(可算名詞)化する理由については「レクチャー1」で説明しましたね。

このようなことは、以下のような物質名詞でも起こります(これも「レクチャー1」で説明しましたね)。

breakfast	「朝食」	lunch	「昼食」	coffee	「コーヒー」
dinner/supper	「夕食」	tea	「お茶」	wine	「ワイン」

(ex) They serve **good lunches** here. ここはうまい昼めしを食わせるよ

ただ、形容詞がついても原則として a[an] のつかない抽象名詞もあります。

× He is making a **steady progress** in speaking English.

○ He is making **steady progress** in speaking English.

彼は英語を話すのが着実に進歩している

上の例のように、progress は形容詞が前に付こうが付くまいが不可算名詞です。

以下にそのような抽象名詞の具体例を挙げてました。これも太字の名詞は頻出です。

(ex) advice	「忠告」	applause	「拍手喝采」	behavior	「行為」
conduct	「態度」	damage	「損害」	fun	「楽しみ」
harm	「害」	homework	「宿題」	information	「情報」
luck	「運命」	music	「音楽」	news	「知らせ」
nonsense	「無意味なこと」	progress	「進歩」	weather	「天気」
wisdom	「知恵」	work	「仕事」	traffic	「交通」

また、形容詞などが前につかなくても抽象名詞なら「そのような性質を持った人(物)」「具体的な種類や行動(の結果)」等を表す場合、物質名詞でも「具体的な種類や製品」等を表す場合、つまりその具体的なイメージ(形、まとまり)を頭に描くことができる場合には可算名詞として用いることができます。

以下にその具体例を挙げてみましょう。

(ex) His new car is a beauty. 彼の新車はすばらしい

☞ beautyを「美しい人(物)」という場合、上例のように数えられる。「美」「美しさ」という抽象名詞として用いる場合には数えられない。

(ex) I cannot understand his sense of beauty.

彼の美的感覚を理解できない

Patience is a virtue. 忍耐は美德である

He explained the virtues of his own car.

彼は自分の車の長所を説明した

☞抽象的な概念としての「美德」という意味ではvirtueは数えられないが、上例のように「個々の美德」「長所」といった場合には数えられる。

This is one of his achievements as a scientist

これは科学者としての彼の業績のうちの1つだ

☞上例のように「(達成された行為・結果としての個々の)業績」という場合にはachievementは数えられる。

もちろん抽象的な概念としての「達成」「成就」という場合には数えられない。

(ex) I was swimming in a sense of achievement.

私は達成感にひたっていた

Turn off the lights. 電灯を全部消しなさい

☞lightを「光」「明るさ」という意味で用いる場合には数えられないが、「灯」「電灯」という意味で用いる場合には数えられる。

(ex) The sun gives us light. 太陽は我々に光を与える

He tripped over a stone. 彼は石につまずいた

☞stoneを「一つ一つの石」という場合には数えられる。が「(素材としての)石」という場合には数えられない。

(ex) This tool is made cut of stone. この道具は石でできている

不可算名詞の数え方。

いくら数えられないといっても、現実には「3つの忠告(advice)」「2つの知らせ(news)」と言うことは十分あり得ますね。そのような場合にではどうやって表現するのでしょうか。

実は、information や advice, news等のような抽象名詞を数える場合には、

a piece of~

を用いるのです。

もちろん(付く名詞によって) a piece of 以外にも様々な表現があります。そこでこのような不可算名詞を数える場合に付く表現を、以下にまとめてみましょう。

- | | |
|----------------------------------|--------------------------|
| (1) a cup of coffee | 「一杯のコーヒー」 |
| (2) a glass of water | 「一杯の水」 |
| (3) a slice of bread | 「一枚のパン」 |
| (4) a loaf of bread | 「一塊のパン」 |
| (5) a bottle of ink | 「一本のインク」 |
| (6) a sheet of paper | 「一枚の紙」 |
| (7) a spoonful of sugar | 「(スプーン) 一杯の砂糖」 |
| (8) a lump of sugar | 「(一個の) 角砂糖」 |
| (9) a cake of soap | 「(一個の) 石けん」 |
| (10) a piece of baggage[luggage] | 「(一個の) 荷物」 |
| (11) a piece of furniture | 「(一個の) 家具」 |
| (12) a piece of information | 「1つの情報」 |
| (13) a piece of advice | 「1つの忠告」 |
| (14) a pair of | glasses[spectacles] 「眼鏡」 |
| | scissors 「はさみ」 |
| | trousers 「ズボン」 |
| | chopsticks 「箸(はし)」 |
| | pajamas 「パジャマ」 |
| | pants 「パンツ」 |
| | shoes 「靴」 |
| socks[gloves] 「靴下[手袋]」 | |

④ a pair of は「同一の2つの部分からなる切り離せない(一对の)もの」に用いる。a couple of は「(種類が同じだけで、それ以外は共通点の薄い)同種の2つのもの」に用いる。

(ex) a pair of socks :(そろいの)ソックス1足

a couple of socks:2つのソックス ☞種類が同じだけで、「そろいの靴下」とは限らない。

共に後ろに複数名詞が来るが、特に a pair of が上記の意味の場合、常に複数形で用いる名詞をとる(もちろんこれ以外に、「a pair of robbers:1組の泥棒」等という言い方もある。これは単に「共通点のある1組の」という意味。それから a couple of の場合、数のはっきりしない時や漠然と言う時に用いることもある)。

(ex) a couple of people:2,3の人達

レクチャー5

可算名詞と不可算名詞につく数量形容詞。

数や量の「多少」を表す形容詞(数量形容詞)には、

- (1)可算名詞にのみつくもの
- (2)不可算名詞にのみつくもの
- (3)どちらにでもつけられるもの

の3つがあります。それぞれ具体的に見ていきましょう

(1)可算名詞の複数形につくもの

- ①「ほとんど~ない」

few

only a few ☞「ほんのわずかの~」。

- ②「2、3の~」

a few ☞ a small number of という言い方もあるが a few の方が一般的。

- ③「たくさん」 「多くの~」

many

a number of

④ちなみに「the number of A」は「Aの数」という意味。a number of A と異なり「単数扱い」になる。

(ex) The number of automobiles has [×have] greatly increased.

自動車の数が非常に増加した

A number of students have [×has] come. ☞ a number of は many と

たくさんの学生が来た

同じ意味なので後ろの動詞は have となる。

a large [good/great] number of
numbers of

many a + 単数名詞

☞ このように「many a」だけは後ろに「単数名詞」をとる。

a great many

quite [not] a few

☞ 要注意!

(2) 不可算名詞につくもの

① 「ほとんど～ない」

little

only a little ☞ 「ごくわずかの～」。

② 「少しの～、少量の～」

a little ☞ a small amount [quantity] of という言い方もあるが a little の方が一般的。

③ 「多くの、多量の～」

much

a good [great] deal of

☞ much のイコール表現は全て要注意!

a large [great/good] amount of + 不可算名詞

a large quantity of

quite [not] a little

(3) 両方につくことができるもの

① 「ほとんど～ない」

hardly any

scarcely any

② 「たくさんの～」

a lot of

lots of

plenty of

④some(いくつかの)も、可算名詞、不可算名詞どちらにもつくことができる。
同じ意味でも several は可算名詞にしかつかない。

(ex) There were some students in the hall.
He gave me some[×several] good advice.

レクチャー6

その他の名詞と「数」に関する注意事項。

(1)複数形の「s」の位置を間違えやすい名詞。

「レクチャー4」で、a piece of を用いた不可算名詞の数を学びましたが、
では「3つの忠告」という場合、複数を示すsはどこに付くのでしょうか。
それは piece に付きます。つまり「3つの忠告」は

three pieces of advice

と表現します。決して three piece of advices とはなりません(advice自体は
不可算名詞なので、複数形などない)。

以下にそのような、複数形の「s」の位置を間違えやすい名詞(を用いた表現)を
いくつか挙げてみましょう。

- | | | |
|---------------------|-------------------------|---------|
| ①a piece of baggage | → two pieces of baggage | 「2つの荷物」 |
| | × two piece of baggages | |
| ②a father-in-law | → fathers-in-law | 「義理の父」 |
| ③a passer-by | → passers-by | 「通行人」 |
| ④a locker-on | → lockers-on | 「傍観者」 |

(2)必ず複数形を用いなければならない表現。

慣用的に、目的語が必ず複数形になる表現があります。以下がその代表例です。

- ① make friends with A 「Aと友達になる」
(ex) I've made many friends in that country.
その国に多くの友だちができた

- ② shake hands with A 「Aと握手する」
 (ex) I shook **hands** with Mr. Bush at the party.
 私はそのパーティでブッシュ氏と握手した
- ③ be on ~ terms with A 「Aと～な間柄である」
 ④「～」の部分には、「good[良い]」「bad[悪い]」「speaking[言葉を交わす]」「visiting[訪ね合う]」等が入る。
 (ex) She was on bad **terms** with her family. 家族との折り合いが悪かった
- ④ in terms of A 1. 「Aの点で」
 =in ~ terms 2. 「Aの言い方(言い回し・言葉)で」
 (ex) We should see the event in **terms** of the whole world.
 世界的見地からその事件を見なければいけない
 I can't describe him in any **terms**.
 どんな言葉を使っても彼を言い表せない
- ⑤ come to terms 1. 「合意する」「仲直りする」
 2. 「あきらめて従う」
 (ex) The two sides finally came to **terms**. 両者はやっと仲直りした
 You must come to **terms** with the fact that you will never be a first-rate actor.
 君は、自分が一流の俳優にはとうてい入れないという事実を受け入れなければならない
- ⑥ change trains[planes] at~ 「～で列車[飛行機]を乗り換える」
 (ex) Change **trains** at the next station for New York.
 次の駅でニューヨーク行きに乗り換えなさい
- ⑦ change hands 「持ち主が変わる」
 (ex) The house has changed **hands**. その家は持ち主が変わった
- ⑧ exchange seats with A 「Aと座席を交換する」
 (ex) Will you exchange **seats** with me? ボクと席を代わってくれませんか
 ④seats以外でも「Aを交換する」という場合、Aには複数名詞が来る。
 (ex) exchange **opinions** 意見を(取り)かわす
 We exchanged **gifts**. 我々はお互いにプレゼントを贈った
 They exchanged **blows**. 彼らはなぐりあいをした

- ⑨ take turns (in/at) doing~ 「交替で~する」
 ①doing~の部分は to do~ と、不定詞を用いてもいい。
 (ex) My husband and I take **turns** locking[to lock] after the baby.
 夫と私で交替で赤ちゃんの世話をしています
- ⑩ put on airs 「気取る」
 (ex) He is always putting on the **airs** of a scholar.
 彼はいつも学者ぶっている
 She is always putting on **airs**. 彼女はいつも気取っている
 He put on **airs** with his learning. 彼は自分の学識を鼻にかけていた
- ⑪ give one's best regards to A(人) 「Aによろしくと伝える」
 (ex) Please give my best **regards** to your family.
 どうかご家族によろしくお伝えください
- ⑫ take measures 「手段(策・措置)をとる」
 (ex) He took appropriate **measures** against it.
 彼はそれに対して適切な措置をとった
- ⑬ change one's shirts 「シャツを着替える」
 (ex) He sweats easily so he frequently changes his shirts.
 彼はすぐ汗をかくので、頻りにシャツを着替える

(3)可算名詞と不可算名詞の両方の意味をもつ名詞がある。

①物質名詞(不可算)と普通名詞(可算)の両方の意味を持つもの

①普通名詞とは、「一定の形や区切りがある(持つ)もの」で「同じ種類のものに共通に適用できるもの」を言う。たとえば「犬」「猫」「机」「椅子」など、すべて普通名詞である。

[物]fire :火	[物]iron :鉄	[物]paper :紙
[普]a fire:火事	[普]an iron:アイロン	[普]a paper:(1)新聞 (2)書類、論文
[物]cloth :布	[物]wood :木材	[物]glass :ガラス
[普]a cloth:テーブル掛け	[普]woods:森	[普]a glass:(1)コップ (2)鏡 glasses:眼鏡

②抽象名詞(不可算)と普通名詞(可算)の両方の意味を持つもの

[抽]room :余地、スペース	[抽]work :仕事	[抽]grammar :文法
------------------	-------------	----------------

[普]a room:部屋	[普]a work:作品	[普]a grammar:文法書
[抽]democracy :民主主義	[抽]government :政治	[抽]power :力
[普]a democracy:民主主義国家	[普]a government:政府	[普]a power:強国、大国
[抽]speech :言語	[抽]chance :可能性、見込み	
[普]a speech:演説	[普]a chance:機会	

③特に複数形で特別な意味を持つ名詞(分化複数)。

{ arm : 腕 arms : 武器	{ content : 満足 contents : 内容	{ manner : (1)手段、方法 (2)態度 manners : (1)礼儀 (2)風習、習慣
{ air : 空気 airs : 気取り	{ good : 善 goods : 品物(複数)	{ spirit : 精神 spirits : 気分
{ pain : 苦痛 pains : 骨折り(複数)	{ mean : (1)中間 (2)(形)下品な、卑しい means : (1)手段(単数) (2)財産(複数)	{ authority : 権威(者) authorities : 当局、公共事業機関
{ day : 日 days : 時代	{ glass : ガラス glasses : 眼鏡	{ spectacle : 光景 spectacles : 眼鏡
{ work : 仕事 works : (1)作品 (2)工場	{ force : 力 forces : 軍隊	{ advice : 忠告 advices : 通知
{ ruin : 破滅 ruins : 遺跡	{ letter : 文字、手紙 letters : 文学	{ time : 時(間)、歲月 times : 時代
{ custom : 習慣 customs : (1)関税(複数) (2)税関(単数)		

(4)a people / peoples は「国民」「民族」。

(ex) The Japanese are said to be a hard working people.

日本人は勤勉な国民であると言われている

Asia is a home of many peoples. アジアにはいろいろな民族がいる

(5) The police は単数名詞？ 複数名詞？

Q : The police (is / are) after you. 警察が君を捜しているぞ

正解は are。集合名詞の中には、常に複数扱いされるものがあります。このタイプの集合名詞は複数形をとらず、a[an] もつきません。the をつければ全体または特定のものを表します。この種の名詞には police 以外に、以下のようなものがあります(太字は頻出)。

(ex) **cattle(牛)** clergy(聖職者) people(人々) poultry(家禽(かきん))

(6) I received many kindnesses from him. は正しいか？

正しいです。(不定)冠詞の a や、本来可算名詞にしか付かない形容詞(many, few等)が抽象名詞(不可算名詞)の前について、その名詞が可算名詞化することがあります(その場合、**具体的な行為や物・実例などを示す**ことになる)。上の英文の many kindnesses も、「たくさんの親切な行為」という意味になります。

(ex) An air conditioner is a necessity in a hot country like this.

こんな暑い国ではエアコンは必需品だ

上の英文では、a necessity は「どうしても必要なもの」、つまり「必需品」という普通名詞(可算名詞)として使われています(もちろん無冠詞の necessity は「必要(性)」という抽象名詞、つまり不可算名詞である)。

レクチャー7

「of+抽象名詞」は形容詞化する。

たとえば「重要性」という意味の抽象名詞、importance に of をつけて、

of importance

とすると、これは「重要な」という意味になり、形容詞の important と同じ意味になります。以下に同じような例をいくつか挙げてみましょう。

① of value = valuable 「価値がある」

② of equal value	= equally valuable	「同様に価値がある」
③ of great use	= very useful	「とても役に立つ」
④ of no use	= useless	「役に立たない」
⑤ of some use	= a little useful	「いくらか役に立つ」
⑥ of world wide fame	= famous in the world	「世界的に有名な」
⑦ of courage	= courageous	「勇気のある」
⑧ of help	= helpful	「役に立つ」
⑨ of learning	= learned	「学識のある」
⑩ of sense	= sensible	「分別のある」
⑪ of worth	= worthy	「価値ある」
⑫ of culture	= cultured	「教養のある」
⑬ of promise	= promising	「前途有望な」

上例のように、この形で用いられる抽象名詞の前には no, little, great, much 等の形容詞が付くことが多いですね。

レクチャー8

「with+抽象名詞」は副詞化する。

たとえば「容易さ」という意味の抽象名詞、ease に with をつけて、

with ease

とすると、これは「容易に(簡単に)」という意味になり、副詞の easily と同じ意味になります。以下に同じような例をいくつか挙げてみましょう。

① with difficulty	= difficultly	「やっとのことで、かろうじて」
② with success	= successfully	「首尾よく」
③ with diligence	= diligently	「勤勉に」
④ with kindness	= kindly	「親切にも」
⑤ with care	= carefully	「注意深く」
⑥ with rapidity	= rapidly	「素早く」
⑦ with fluency	= fluently	「流暢に」
⑧ with calmness	= calmly	「落ち着いて」

- | | | |
|----------------|-----------------|--------|
| ⑨ with energy | = energetically | 「精力的に」 |
| ⑩ with reserve | = reservedly | 「遠慮して」 |
| ⑪ with warmth | = warmly | 「暖かく」 |
| ⑫ with vigor | = vigorously | 「勢いよく」 |

レクチャー9

意味がまぎらわしい名詞。

(1) 「客」

- ① visitor : (1)訪問客(=caller) (2)観光客(=tourist, sightseer)
- ② guest : 招待客、ホテルの客 ⇔ host, hostess
- ③ customer : (商店などの) 顧客
- ④ client : (医者・弁護士の) 患者・依頼人
- ⑤ spectator : (スポーツの試合等の) 観戦客、見物人
- ⑥ audience : (コンサート等の) 観客、聴衆
- ⑦ passenger : 乗客
- ⑧ commuter : 通勤客

(2) 「料金」等

- ① charge : (サービスに対する) 料金、手数料、使用料
 - ② cost : 費用、原価
- ① priceは商品等につける値段であるのに対し、costは生産・入手・維持などのために実際に支払う費用。

(ex) Tom's Garage charges higher prices [× costs] than Steve's Repair Shop does for the replacement of car engines.

トムの修理工場は、スティーブの修理店よりも高い値段を、車のエンジンの交換に対して請求した

- ③ debt : 借金
- ④ fare : (交通機関の) 運賃
- ⑤ fee : (1)入場料、入学金(=admission fee)
(2)授業料(=school fee)
(3)(弁護士、医者等への)謝礼

- ⑥fine : 罰金
- ⑦postage : 郵便料金
- ⑧price : (物の) 価格
- ⑨rate : 光熱費や電話代等
- ⑩interest : 利子、利息
- ⑪tax : 税金
- ⑫toll : (道路等の) 通行料、使用料
- ⑬bill : (ホテル・水道等の) 料金
- ⑭due : (1)[one's due] 当然支払われる[与えられる]べきもの
(ex) He finally has received his due.
彼はついに当然の報いを受けた
- (2)[dues] 会費、使用料、手数料、税、料金、賦課金
(ex) club dues クラブの会費
membership dues 会費
- ⑮fund : 基金

(3) 「働いている人」

- ①worker : (最も一般的に) 働く人
- ②employee : 従業員 =the employed ⇔ employer「雇い主」
- ③part-timer : パート、アルバイト ⇔ full-timer「専任」「常勤者」
- ④laborer : 肉体労働者
- ⑤clerk : 事務員、店員 cf; a bank clerk「銀行員」
- ⑥secretary : 秘書
- ⑦receptionist : 受付係
- ⑧executive : 重役、管理職(員)

(4) 「収入」

- ①pay : (サービス等に対する) 報酬
- ②salary : 給料
- ③income : 収入
- ④wage : (肉体労働に対して支払われる) 賃金
- ⑤fee : (医者・弁護士等に支払われる) 謝礼

(5) 「旅」

- ①journey : (陸路で行く遠方への) 旅、旅行
- ②travel : (最も一般的に使う) 旅
- ③trip : (特定の場所への短い) 旅
- ④voyage : (船で行く) 旅、船旅
- ⑤tour : (観光、視察目的の) 旅

(6) 「仕事」「職業」

- ①job : 報酬をもらってする仕事、勤め口の意。または具体的で永続的なまた臨時の仕事。
- ②work : ある意図をもって行なう努力を伴う活動を示し、広く仕事を意味する「仕事」という抽象的な概念を表わす平易な語。最も一般的・包括的な語で、あらゆる意味での仕事・労働という。通例、抽象的な意味での仕事。
- ③task : 一定期間内に個人・団体に割り当てられ、義務として課せられた仕事、任務、作業(workよりも困難を伴うことが示唆されている)。
- ④labor : 主として肉体的な激しい労働。=toil
疲労、不快感を伴うことを含意する。
- ⑤career : 訓練や専門的な教育を要する仕事。または生涯の経歴
- ⑥business : 利益を目的とする商業活動などの仕事
☞one's businessは自分の経営している事業・商売をさすので、単に自分の従事している仕事をいう場合はone's jobを用いる。
(ex) I like my job. 仕事が気に入っています
☞単に「やるべき事,仕事」の意味でbusinessを用いない。
(ex) Do you have anything[any ×business] to do this evening?
今晚仕事がありますか
- ⑦vocation, calling : (神から与えられたと感じ、使命感をもってする) 仕事、天職。
- ⑧profession : 医者・弁護士・教師・技術者・作家等、知的な専門知識や訓練を必要とする職業。
- ⑨occupation : 職業をさす最も一般的な語で、正式な文書などにも使うやや堅い語。日本語の「職業」に最も近い語。
- ⑩trade : 手を使ってする熟練を要する職業。

☞work と business だけが「不可算名詞」(businessは「可算名詞」として用いられることもあり)。

(7) 「影」

①shadow : (形としての) 影、影法師

②shade : (陽のあたらない) 陰、日陰

(ex) We rested in[under] the shade[×shadow] of the trees.

私達は木陰で休んだ

(8) 「約束」

①promise : 約束

②appointment : 1. (時間・場所を決めての) 人と会う約束
2. (病院・美容院等への) 予約

③agreement : (~に関する) 協定、契約

④rule : 規定、規則

⑤subscription : (新聞・雑誌等の購読の) 予約

⑥reservation : (座席・ホテル等の) 予約

(ex) make a reservation for A: Aの予約をする

=reserve A

=book A

(9) 「ゆるし」

①admission : (入会、入場、入社、入学) 許可

②permission : (書類又は口頭による「~してよいという」) 許可

=consent

=approval

③leave : (外出して良いという) 許可

④forgiveness : (罪等の) 許し、赦免

(10) 「道」

①avenue : 本通り、大街路

②street : (街などの両脇に建物が立っていて、歩道がついている) 道路

③road : (都市と都市の間の舗装された) 道路

④path : (人工的でない自然にできた細い) 道

⑤lane : (1) (建物の脇の細い) 道、(田畑の曲がりくねった) 道

(2) ハイウェイの車線

⑥way : 具体的な「道」を指さず、Tell me the way.等のような言い方で用いる

(11) 「サイン」

①sign : 「合図」「星座」「兆候」「印」「標識」

Ⓜ signには(「署名する」という動詞になることはあっても)「署名」という(名詞の)意味はない!

②signature : (書類などにする)サイン、署名

③autograph : (有名人などからもらう)サイン

(12) 「習慣」 Ⓜ特に①と②の違いが重要。

①habit : (個人の無意識的な)習慣

②custom : (社会的な)習慣、慣習 =convention

③practice : (個人が意識的に身につける)習慣

(13) 「移民」

①immigration : (外国からやってくる)移民 im =「中(へ・に)」

②emigration : (外国へ出てゆく)移民 ex =「外(へ・に)」

(14) 「天気」「天候」

①weather : 天気・天候 [不可算名詞]

②climate : (ある特定の地域の)気候・風土 [可算名詞]

(15) 「景色」

①view : ある方向を見たときの(特に遠方の)眺め, 風景

②scene : (1)特に絵のような構成のまとまりを持ち, 一目で見渡せるview

(2) (事件等の)現場

(3)場面

③sight : 特に印象深い光景

名所

④scenery : ある場所・地方の地理的外観の全体

Ⓜこれに対し、一つ一つの風景は scene。

Ⓜscenery だけは「不可算名詞」(つまり数えられない)。

⑤landscape : 広々とした陸地の風景、景色 ⇔seascape

(16) 「ゴミ」

- ①garbage : (台所から出る) 生ゴミ
- ②trash : (家庭・オフィスから出る) 小型ゴミ
- ③rubbish : (1)=garbage (2)=trash
- ④refuse : 「廃物」に相当する堅い言い方
- ⑤litter : 道路等に散らかされたゴミ、紙くず

(17) 「ひげ」

- ①mustache : 口ひげ
- ②whisker(s) : ほおひげ
- ③beard : あごひげ

(18) 「手」「足」

①「手」

- (1)arm : 腕 (肩のつけ根から手首まで) cf; upper arm「上腕部」
- (2)hand : 手 (手首から指の先まで)

②「足」

- (1)leg : (太もものつけ根から下の部分)
- (2)foot : (足首から下の部分)

(19) 「群れ」

- ①flock : (鳥、羊の)群れ
- ②herd : (牛、馬、豚などの)群れ
- ③pack : (犬、狼などの)群れ
- ④school : (魚の)群れ
- ⑤crowd : (人の)群衆
- ⑥troop : (移動する人・サル・アリの)群れ

意外な意味を持つ名詞。

account	: 「口座」	order	: 「秩序」「規律」
act	: 「(芝居・劇の)幕」	party	: ①「党派」②「相手」
art	: 「技術」「こつ」「要領」	point	: ①「効果」
board	: 「委員会」		(ex) there is no point in doing~
break	: 「休息」		「~しても無駄だ」
calling	: 「職業」		②「要点」
capacity	: 「能力」		(ex) to the point「的を射た」
case	: ①「例」②「患者」	practice	: ①「習慣」
	③「事実」「真相」		②「(医者・弁護士等の)業務・仕事」
cause	: ①「大(主)義」②「理由」		③「(医者・弁護士等の)患者・依頼人」
challenge	: 「やりがいのある事」	reason	: ①「理性」
change	: 「釣り銭」「小銭」		②「道理」「分別」
class	: 「階級」	respect	: 「点」
company	: 「一緒にいること」	right	: 「権利」
command	: 「(語等を)操る能力」	room	: 「余地」「空間」
dish	: 「料理、食べ物」	rule	: 「支配」「統治」
drive	: ①「衝動」	safe	: 「金庫」
	②「(グループ)運動」	school	: ①「(学問等の)学派、流派」
duty	: 「関税」=customs		②「(大学の)学部」
			③「(魚の)群れ」
effect	: 「趣旨」	second	: 「瞬間」
	(ex) to the effect that~	sense	: ①「意味」
	「~という趣旨の」		②「認識力」
end	: 「目的」	sentence	: 「判決」
fault	: 「責任」	shade	: 「(意味等の)わずかな違い」
fashion	: 「やり方」=way, means	shame	: 「残念な事」=pity
figure	: ①「人物」②「図形」	side	: 「脇腹」
	③「数字」④「計算」	something	: 「(無冠詞で)重要人物」
fine	: 「罰金」		「大したこと」
fit	: 「発作」	sculpture	: 「人間」

helping	: 「(食物の)一杯」	spirits	: 「(強い)酒」
humor	: 「気分、機嫌」	stranger	: 「見知らぬ人、~に不案内な人」
image	: 「生き写し」	study	: ①「書齋」 ②「研究」「調査」
interest	: ①「利息」 ②「利害(関係)」「利益」	subject	: 「話題」
leave	: ①「許可」 ②「休暇(期間)」	table	: 「表」「リスト」 (ex) a table of contents「目次」
life	: ①「(集合的に)生物」 ②「伝記」③「活気」 ④「活気を与えるもの」 ⑤「実物」「実物大」	tongue	: 「言語」 mother tongue:「母語」
line	: ①「職業」②「一筆」	treat	: 「(滅多にない)楽しみ」
matter	: 「物質」	trial	: 「裁判」
means	: 「財産」	turn	: ①「順番」 ②「才能」=talent, gift
mine	: 「鉱山」	vehicle	: 「伝達手段」
might	: 「力」	want	: 「不足」
much	: 「大したもの(こと)」	way	: ①「癖」②「点」
name	: 「名声」「評判」	well	: ①「井戸」②「源泉」
notice	: 「通知、知らせ」	will	: ①「意志」②「遺言書」
at short notice	で「急に」「すぐさま」というイディオムもある。	word	: 「(one's~で)約束」 (ex) keep[break] one's word:「約束を守る[破る]」

レクチャー11

複数(形の)名詞の所有格のアポストロフィ(')の付け方。

複数(形の)名詞の所有格の作り方は、sで終わる複数名詞には、アポストロフィ(')だけをつけます。

- (ex) a girls' school 女学校
 ladies' gloves 婦人用手袋
 birds' nests 鳥の巣
 April Fools' Day エイプリルフール

s 以外で終わる複数(形の)名詞には 's をつけます。

(ex) children's toys 子供のおもちゃ

men's coats 紳士用上着

a women's college 女子大学

特に s で終わる複数(形の)名詞の所有格について、アポストロフィをどこに付けるのかが問われやすいのでしっかりおさえておきましょう。

冠詞

レクチャー1

不定冠詞(a[an])の特殊な用法。

不定冠詞と呼ばれる a[an] は、

- ①可算名詞の単数形を文中にはじめて登場させる場合
- ②「(数多くある中の) ひとつの～」という意味

で用いられるのが基本ですが、それ以外にも様々な意味があります。文法語法問題用には、◎をつけた項目をおさえておきましょう。

(1) 「ある～」 = a certain

(ex) It is true in a sense. それはある意味で真実だ
He came back on a Christmas. 彼はある年のクリスマスに帰ってきた

(2) 「いくらかの」 = some

(ex) She thought for a while. 彼女はしばらくの間考えた

(3) 「同じ」 = one and the same

(ex) Birds of a feather flock together. 同じ羽毛の鳥は群れ集まる
⇨ 類は友を呼ぶ

◎(4) 「～につき」 = per

(ex) We have five English classes a week. 英語の授業は週に5時間ある
Ⓢ a はふつうの口語調。per は改まった実務英語などに用いる。

(5) 「どれでも」「～というもの」 = any

「～というものならどれでも」という意味で、不特定の1つを代表として取り上げ、その種類のものすべてについて特有の性質を述べる形です。

このような総称を表すのは、原則として主語になる場合です。

(ex) A house built of wood is more easily burnt than a house of stone.
木造の家は石造りの家より容易に燃える

◎(6) 「a[an]+固有名詞」

① 「～と(か)いう人」

(ex) A Smith spoke to me all night long at the party.
スミスとかいう人が、パーティーで一晩中私に話しかけてきた

② 「～のような人」

(ex) I want to be an Edison in the future.
将来はエジソンのような人になりたい

He is an Obama in speech.
彼は弁舌にかけてはオバマのような雄弁家だ

會この場合、a[an]の後には、「有名な人物」または「話し手と聞き手の間ですでに共通にわかっている固有名詞」がくる。引き合いに出す人物によっては、人をけなす場合にも用いられる。

③ 「～家の人」

(ex) His wife is a Tokugawa. 彼の奥さんは徳川家の人だ

④ 「～の作品・製品」

(ex) He bought a Kodak and showed it to me.
彼はコダックのカメラを買って私に見せてくれた

※その名詞に a をつけるか an をつけるかについての注意点。

①母音字で始まっているも、発音が子音の語には原則として a をつける。

(ex) a university a European a one-man show

②h で始まっているも(直後が母音で)、その h を発音しない語には an をつける。

(ex) an hour an heir(相続人) an honor(名誉となるもの)

③略語でも、発音が母音で始まるものには an をつけるのがふつう。

(ex) an MP(代議士) an SCS(遭難記号)

レクチャー2

定冠詞(the)の特殊な用法。

the の持つイメージは、要するに「1つに決まる(限定・特定される)」ということ(それに対し「a+名詞」は「たくさんある中の1つ」というイメージ)。です。具体的には以下の3つの用法が最も一般的ですね。

①前に出た名詞に付ける ☞前に一回述べているから「1つ(一人)に決まる」

(ex) I met a boy yesterday. **The** boy was blind.

私は一人の少年に昨日会った。その少年は目が見えなかった

②前後の関係からそれとわかる名詞に付ける ☞つまりこれも「1つに決まる」

(ex) Will you open **the** window? 窓を開けてくれませんか

③常識的に「唯一のもの」をさす名詞に付ける ☞これもまた「1つに決まる」

(ex) **the** sun, **the** moon, **the** earth, **the** universe (宇宙), **the** skyなど。

上記以外にも、the には様々な用法があります。これも文法語法問題用には、◎を付けた項目を特に注意してください。

(1)「～というもの」という意味で、その種族全体をひとまとめにして表す。

a[an] にも同じような用法ありますが、「the+名詞」の方がやや形式ばった学問的記述などに用いられます。また a[an] と違って、目的語の位置でも総称を表すことができます。

(ex) **The** horse is a useful animal. 馬は役に立つ動物だ

He plays **the** violin. 彼はバイオリンをひきます

◎(2)「the+形容詞(分詞)」。

① 「～な人々」という意味で「人を表す複数名詞化」することがある。

the rich (金持ち)	the young (若者)
=rich people	=young people
the poor (貧乏人)	the old (老人たち)
=poor people	=old people

(ex) The very wise avoid such temptations.

非常に賢明な人たちはそのような誘惑を避けるものだ

② 「～なもの、こと」という意味で「抽象名詞化」「集合名詞化」することがある。

(ex) The most important is yet to be explained.

最も大切なことがまだ説明されていない

The task approaches the impossible.

その仕事は不可能に近い

◎(3) 「catch[take等]+A(人)+by+the+B(身体の一部): AのBをつかむ」。

このような「A(人)+前置詞+the+B(身体の一部)」を用いる表現(動詞)として、以下のものはおさえておきましょう。

(ex) He caught [took] me by the arm. 彼は私の腕をつかんだ

by は「つかむ場所」を表す前置詞。

She seized the child by the collar. 彼女は子供のえりをつかんだ

He shook her roughly by the shoulder. 彼は乱暴に彼女の肩をゆすった

He kissed the girl on the forehead.

彼はその女の子のひたいにキスした

on は「接触」を表す前置詞。

He patted me on the back.

(注意を引いたり、慰めるために)彼は私の背を軽くたたいた

He looked [stared] me in the eye.

彼は私を[じっと]見つめた

◎(4) 「by+the+A(単位を表す名詞)」で「～単位で」という意味になる。

(ex) We buy tea by the pound. 私たちはポンド単位でお茶を買う

The workers are paid by the week.

その労働者たちは週給をもらっている

(5) 「the+(単数の)普通名詞」が抽象名詞化することがある。

これは文語的な表現で、諺など比較的限られた表現に見られるものです。

(ex) The pen is mightier than the sword.

文筆(ペン)の力は武力より強い

レクチャー3

冠詞に関するその他のルール。

④(難関私大以外の)文法問題用には、(1)だけ覚えておけば十分。

(1)交通(通信)手段を表す by の後ろの名詞は、必ず無冠詞にする。

交通(通信)手段を表す by の後ろの名詞は、必ず無冠詞にしなければなりません。

(ex) by train[car/ plane/ ship] (列車/車/飛行機/船で)

by radio[telegram/ telephone] (無線/電報/電話で)

Ogo by car Ocome by plane

×go by my car ×come by the plane

ただし、by 以外の前置詞の場合は冠詞(又は所有格)が必要となります。

(ex) go in my car

come on a plane

また、名詞が形容詞で修飾されたり、具体的に「何時何分のものか」を述べる場合は冠詞を伴います。

(ex) I will go to the airport by the 6:40 train.

私は6時40分の列車で空港に向かいます

このように慣用的に無冠詞で名詞が用いられる場合として、以下のようなものがあります。

①bed, class などの名詞がその本来の目的(bedなら「寝る」、classなら「授業」)の目的を表すとき。

(ex) It is time you went to **bed**. あなたは寝る時間ですよ
She is in **class** now. 彼女は今授業中だ

②食事の名前

(ex) He had curry and rice for lunch. 彼は昼食にカレーライスを食べた
ただし、特定の食事の時には冠詞をつける。

(ex) I didn't like **the breakfast** my mother had served.
私は母が出してくれた食事が気にいらなかった

③病気の名前

(ex) She has **breast cancer**. 彼女は乳癌だ

④季節の名前

(ex) I like **autumn** of all the seasons. 全ての季節の中で秋が一番好きだ
ただし特定の季節には冠詞がつく。

(ex) The earthquake occurred in **the summer** of 1916.
その地震は1916年の夏に起きた

⑤1人によって占められる役職を表す語 (ただし冠詞がつくこともある)

1.補語になる場合

(ex) Jack is (the) captain of the team.
ジャックはそのチームのキャプテンだ

2.(前置詞の)as に続く場合

(ex) As the chairman of the committee, I declared the opening of the

game.

委員会の議長として、私は試合の開始を宣言した

(2) 固有名詞と定冠詞。

① 定冠詞のつく固有名詞

河川・海洋 : the Thames [tenz], the Sea of Japan, the Pacific

山脈 : the Alps, the Rockies, the Himalayas

群島 : the Philippines, the Marianas

海峡・半島 : the English Charnel, the Izu Peninsula

運河 : the Suez Canal, the Panama Canal

砂漠 : the Sahara (Desert)

船舶 : the Mayflower, the Titanic

官公庁 : the Ministry of Foreign Affairs

博物館・図書館・劇場など : the British Museum, the Hibiya Library
the Globe Theater, the Eiffel Tower,

② the のつかない固有名詞

會一般に国名, 大陸, 州, 県, 都市, 山, 湖, 島, 岬, 公園, 広場, 駅, 橋,
学校, 教会, 城, 天体などには the をつけないのがふつう。

(ex) Japan, Europe, California, Niigata Prefecture, Mount Fuji,
Lake Biwa, Sado Island, Cape Horn, Hibiya Park, Ueno Station,
London Bridge, Juilliard School of Music, Westminster Abbey,
Warwick Castle, Venus

會「〇〇大陸」という場合には the がつく。

(ex) the Eurasian Continent(ユーラシア大陸)
the Antarctic Continent(南極大陸)
the Asiatic continent(アジア大陸)

會国名でも「〇〇連邦」「〇〇共和国」「〇〇帝国」という場合には the が
つく。

(ex) the Soviet Union(ソ連), the Republic of Korea(大韓民国)

the Roman Empire(ローマ帝国)

「アメリカ合衆国」も以下のように表す。

the United States (of America)

the U.S.

the U.S.A.

「イギリス」は以下のように表す。

the United Kingdom

the U.K.

※正式名称は the United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland.

③「新聞」「雑誌」には the がつく。

(ex) The Times タイムズ

The Economist エコノミスト

④「団体名」にも the がつく。

(ex) the Republican Party 共和党

the Liberal Democratic Party 自由民主党

必ず the をつける地名の区別の仕方。

地名について the がつくものとしては以下のようなものがある。

ocean, sea, river, canal, isthmus, peninsula, gulf, shore, beach等

※river 等の場合 a river ということもある。

(ex) We can hear the ocean from here. ここから海の音が聞こえる

I spend long hours every day at the beach.

浜辺で毎日長時間過ごす

逆に the をつけなくても用いられるものとして以下のようなものがある。

street, avenue, square, pond, bridge, mount, cape, lake, island,

bay, park等

※もちろん「特定の street」といった場合には the street と、theがつ

く。

両グループの違いは、**the** をつけるグループは、はっきりした境界がないのに対して、**the** をつけなくてもいいグループは、境界がはっきりしている点。境界がはっきりしないものには **the** をつけることによってそのものを明示し、他と区別する(人間の感覚では境界を認識しにくいものには **the** をつけてそのものを特定する)のである。逆に言えば、おのずから境界がはっきりしているものには **the** はあえて必要ないということ。